

国際天文学連合第18回総会報告

古 在 由 秀*

第18回目の国際天文学連合 (IAU) の総会は、1982年の8月17日から26日まで、ギリシャのパトラス市にあるパトラス大学を中心にしてひらかれた。およそ2500人の天文学者が世界中から集ったが、日本からも50人ほどの参加者があった。

前回の総会の前までは、1982年のIAUの総会はブルガリアのバルナでひらかれることになっていたのだが、ブルガリアがその招待をとりけしたので、1979年の総会では18回総会の場所が決められなかった。その後ギリシャが努力してパトラスで総会がひらかれることになったのだが、準備は大変だったと思うし、すべて解決されない前に総会をむかえることになった。宿泊場所も会場から35kmは離れたホテルという人達もでてきたし、IAUのチャーターしたバスも時間通りにくることは少く、参加者から多くの不満がきかれた。

欧米から来た人にとってのもう一つの不満は気候で、暑く、湿度は高いとこぼしている人が多かった。しかし、筆者にとっては、東京の夏よりははるかにすごしやすく、むしろ楽ができたと思った。次回の総会はインドで行われる予定で、インドの国内委員からは8月と11月の案が2つ出されたが、今回の暑さでこたえた人達は11月案を支持し、今回は1985年11月19~28日にインドのニュー・デリーで総会がひらかれることになった。丁度、1982年の同じ時期、同じ場所でスポーツアジア大会がひらかれたので、あのテレビを見た方には気候が想像できるだろう。

初日の17日は朝から、委員会委員長会議、各国代表者会議、財務委員会、指名委員会などがあり、夕方からパトラス市中の野外円形劇場で開会式と総会がとり行われた。以上の各委員会、総会とも会長のバップさんが座長になるはずであったが、バップさんが病氣中ということで、総幹事や副会長が代行した。バップさんはギリシャに来る前にドイツのミュンヘンで発病、入院し、19日に亡くなった。55歳であり、会期中に追悼の式があった。バップ会長は、開会のあいさつ、総会での会長演説の原稿は用意されており、副会長がこれを代読した。

18日から25日まで、日曜日をのぞいて毎日、平行して大小さまざまな会合がひらかれており、自分の日程をくむのにも苦労した。委員会によっては、2日も3日もって自分達の会合をひらいていたが、こんなことが

一般的に行われるようになると、なお大変になる。筆者の属している天体力学の委員会では、総会中は招待による総合報告しか認めずに日程をきりつめた。

最終日の26日にも総会があり、会長、副会長などが決った。次の3年間の会長は、オーストラリアの R. Hanbury Braun、副会長は新任が米国の R. P. Kraft、メキシコの M. Peimbert、ソ連の Ya. S. Yatskiv の3名で、あと3名の留任者は南アフリカの M. W. Feast、チェコの L. Kresak、英国の R. Wilson である。総幹事はデンマークの R. M. West が副総幹事にはベルギーの J. P. Swings がえらばれた。

また、中国の加盟が正式に決り、今回から正式の代表もきていた。しかし当分の間、中国の名前の下で2つの加盟団体ができることになった。IAUへの加盟国は49である。なお、日本からの46名をふくめ、730名の新しい会員が承認され、IAUの会員の数は5,300人となった。3年間の予算は1,433,700スイスフランである。

総会の決議としては、流星のデータ・センターの設置、ハレー彗星の観測計画についてなどで、また、第51委員会として“地球外生命の探索”の新設、26委員会の“二重・多重星”への改名、34委員会の“星間物質”への改名も認められた。その他、いろいろの決議が総会や委員会レベルでも行われている。

日本人の各委員会における委員長は第29 寿岳潤、第44 小田稔、また副委員長は、第35 杉本大一郎、第36 小平桂一の諸氏、他に第44委員会の副委員長は米国在住の KONDO Yoji 氏である。また林忠四郎氏が特別指命委員会の委員の一人にえらばれた。

お知らせ

三菱財団自然科学研究助成募集

上記について三菱財団より本会宛に募集要項が来ています。応募を希望される方は学会事務所に御連絡下さるか、個別に下記宛「三菱財団自然科学助成応募要項」を御請求下さい。

宛先 財団法人 三菱財団

〒100 東京都千代田区丸の内 2-5-2

三菱ビルディング 15階 Tel. 03-214-5754

助成の金額は総額約1億5千万円、1件2千万円以内、研究期間は原則として1年、応募締切は昭和58年5月20日。助成金贈呈は10月19日。

* 東京天文台 Yoshihide Kozai: